



漁業調査指導船

江の島丸コラム

城ケ島南西沖浮魚礁灯浮標メンテナンス

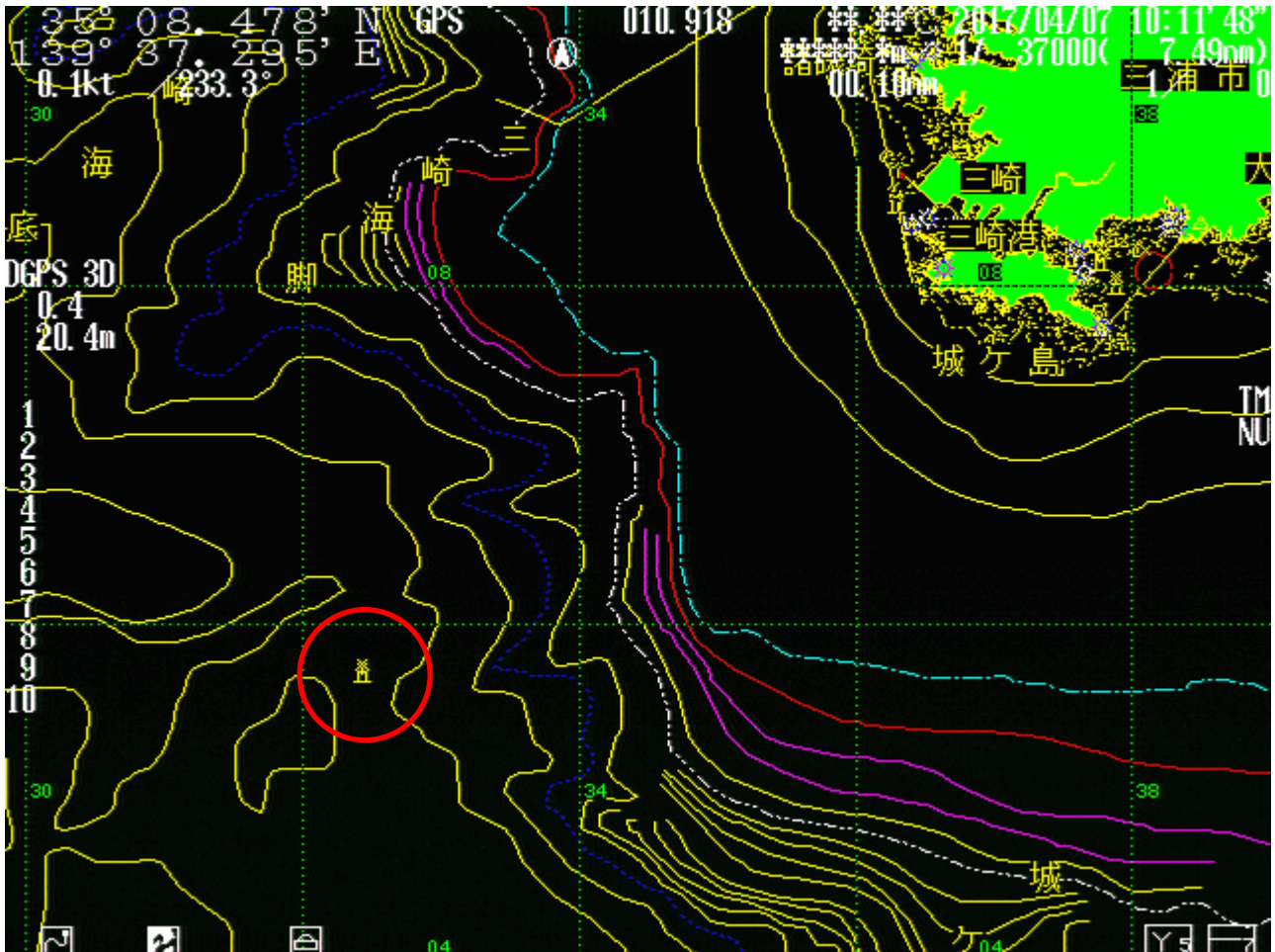
江の島丸航海士の成瀬です。

平成 29 年 3 月 23 日

江の島丸は城ケ島南西沖浮魚礁灯浮標（以後、南西沖浮標）に設置してある流向流速計センサーの整備を行いました。

その時の様子を紹介したいと思います。南西沖浮標の位置は三浦市城ケ島の南西約 8 キロ付近、海図の黄色い浮標のマークの近辺に浮かんでおり、カツオ、マグロなどの回遊魚を集める役割のほか海の流れや水温などの海洋観測できる装置も積んでいます。

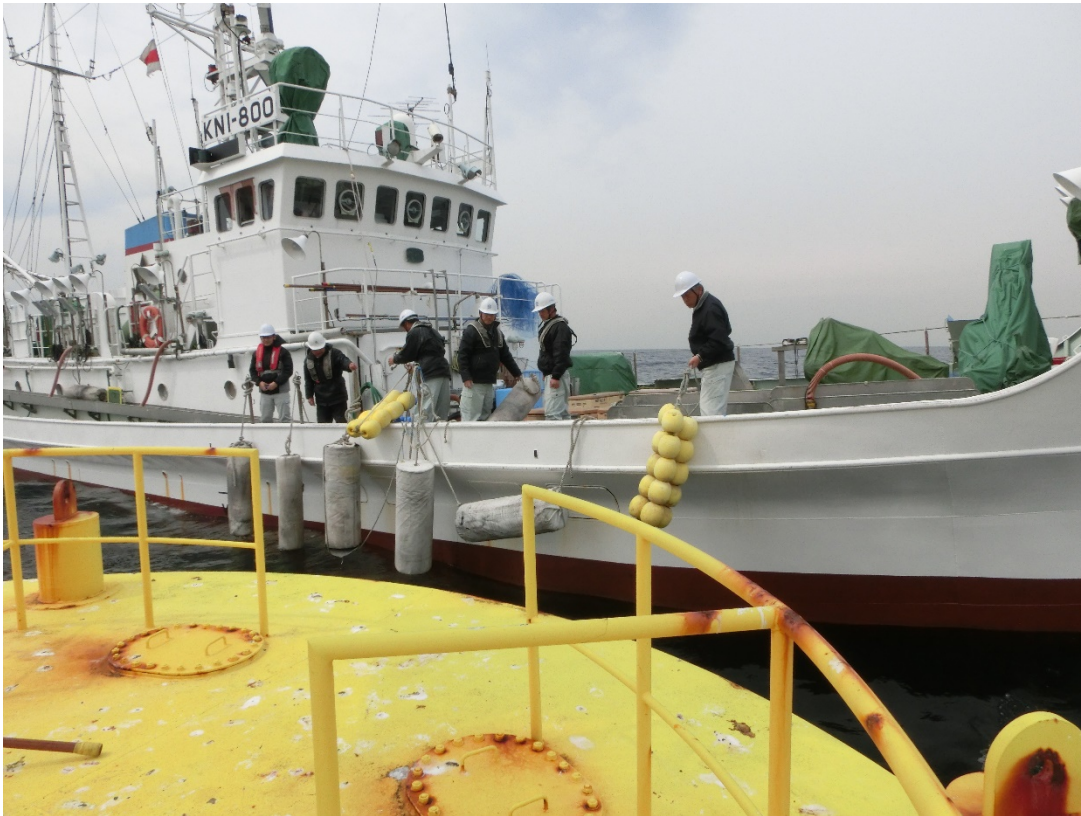
南西沖浮標で観測された流向流速などのデータは無線で神奈川県水産技術センターに自動送信されホームページ上の「リアルタイム海況データ・城ケ島沖観測ブイ」で知ることができます。



三崎港を 10:30 に出港して約 30 分後に南西沖浮標に到着。
船側に防舷物を設置し乗り移る準備を終えてから南西沖浮標に接近
乗り移ります。



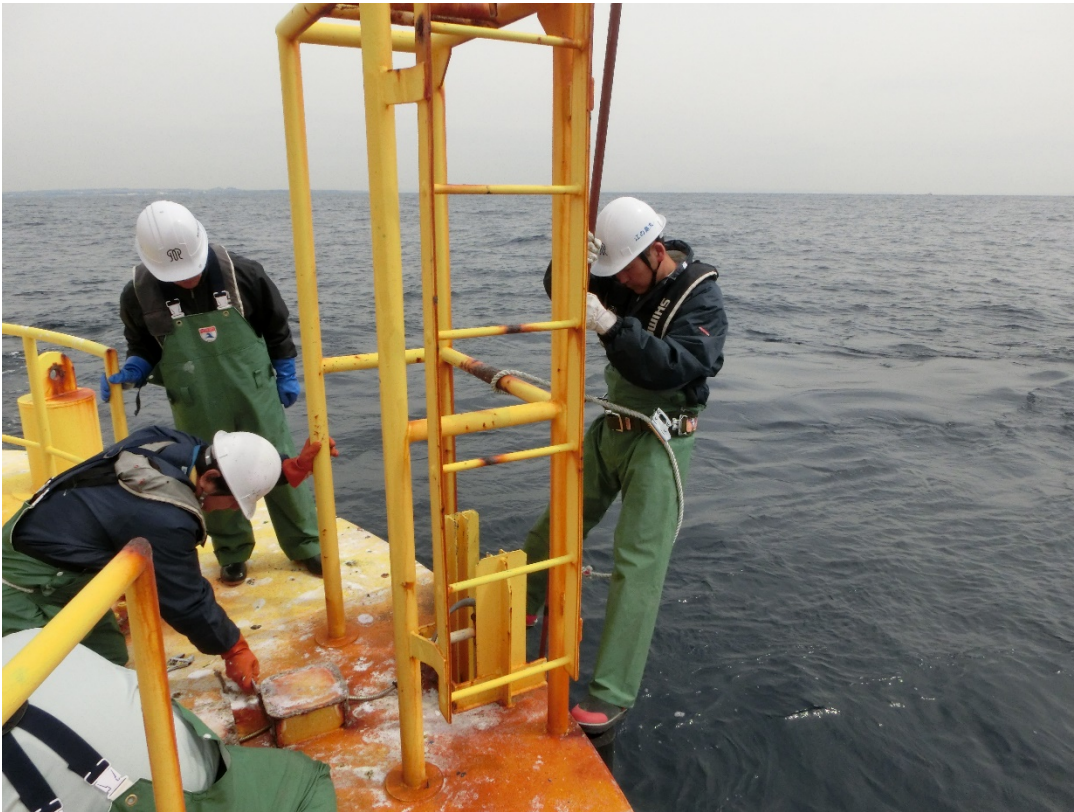
作業員、整備用品の移動が終わり江の島丸は南西沖浮標付近で作業を監視する為に一時浮標を離れます。



作業開始。



流向流速を計測するセンサーの付いた鉄の棒を引き揚げる為に溝に付着しているフジツボやカラス貝などを落とす作業から始めます。



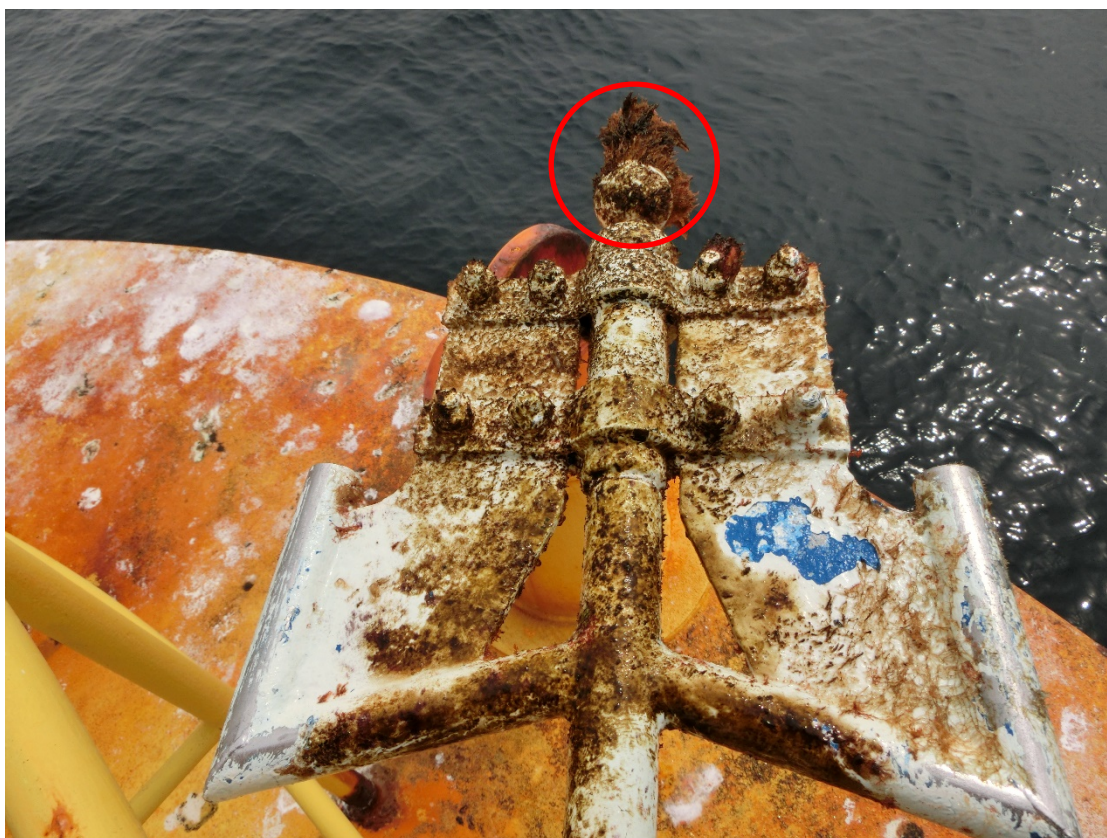
センサーの付いた鉄の棒がこの溝にはめ込まれています。



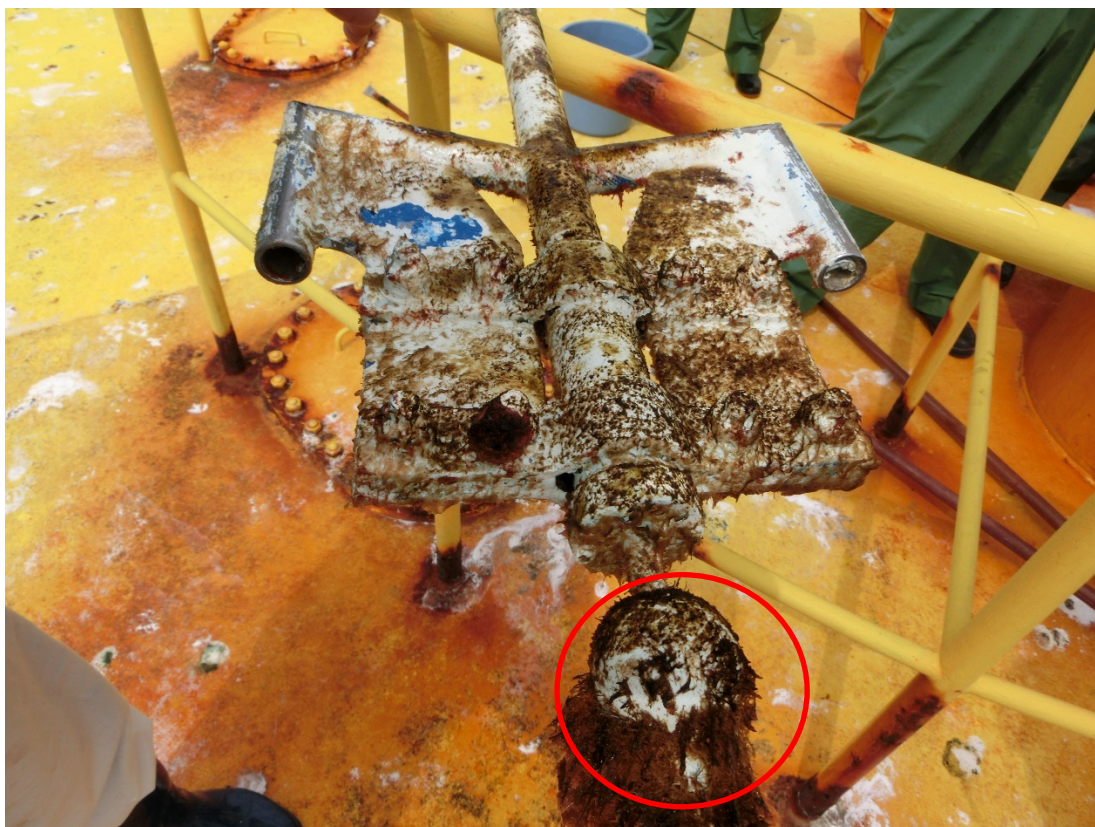
センサーの回収作業中。



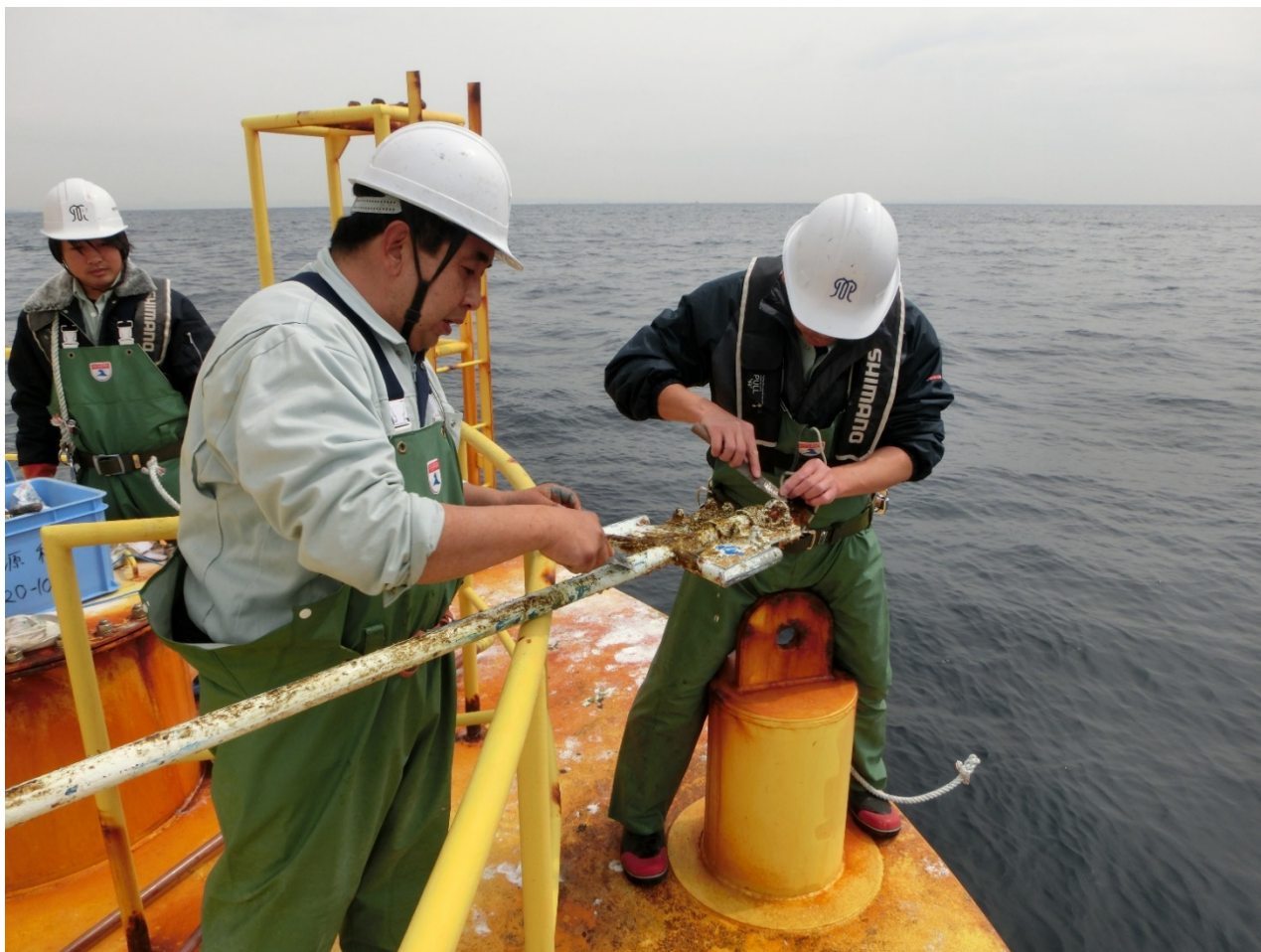
回収した流向流速計センサー（赤丸部分）



フジツボなどの貝類の付着は少なく前回に比べて綺麗な状態でしたが海藻がセンサー周りに付着し成長していました。



流向流速計センサーの付着物の撤去。



特にフジツボやカラス貝などの貝類が多くセンサー部に付着すると正確なデータが取れなくなります。

